

第14回雪のラブレター募集(入賞作品)

【俳句の部】

賞	最優秀賞
作品	よ ^す ひ ^す 捨 ^て の ^き 君 ^み の ^ふ 不 ^い 意 ^う 打 ^ち 雪 ^ゆ の ^き 夜 ^よ
作者	ひよ
住所	神奈川県
講評	男女を問わず、知り合っ ^て しばらくの間は、さん、君、ちゃん等の敬称を付けて名前を呼び合う。しかし二人の仲が少しづつ親密になってきたある雪の夜、彼女が急に呼び捨てに僕を呼んだ。まさに不意打だ。ちょっと照れるけど…へんに嬉しい。こっちも呼び捨てにと思うけど…。さっきから静かに雪が降りつづく。

賞	優秀賞
作品	雪搔きに暮れる結婚記念の日
作者	藤林 正則
住所	北海道
講評	「暮れる」の的確な詩的一語によって豪雪の地である事が伺える。今日は特別な日、準備OK！！。でも何より先に雪を片付けなくてはならない。二人で黙々と雪を搔く。あたりはもう薄暗く、そちこちに明りが点きはじめた。あの日の事を思い浮かべながら、さあもう少し、急ごう。ナンテツツテ今日は結婚記念日なんだから…。

賞	佳作
作品	恋を得て君と会ふ日の冬銀河
作者	島津 裕子
住所	山形県
講評	ある日、ある時、それまで何気なかったことが、はたと恋として意識してしまうことがある。あたりの景色がちよつと違って見え始め、君と会う事もそれまでとはまったく違うときめきの瞬間になってしまった。澄んだ空気に煌めく冬の星たちもそんな私を祝福してくれているようだ。
作品	ワイパーを止めれば二人だけの雪
作者	忽滑谷 三枝子
住所	群馬県
講評	夜、降りしきる雪、街の灯、リズムよく動くワイパー、そしてふたり…。止めた車から見える雪の光景はとても美しい。ふとワイパーを止めてみるとあつという間にその光景が雪に覆われ、車の窓すべてが真白になった。このまゝ降りしきる雪に包まれていよう。
作品	雪衾ちあきなおみを聴き逃す
作者	増田 邦比古
住所	京都府
講評	ちあきなおみ、艶歌からテンポのよいポップスまで歌いこなす、今も人気の高い伝説の歌手である。豪雪のある日車で出掛けた。道の左右はまるで衾のように積もった雪の嵩に圧倒される。大好きなちあきなおみを聴きながら走ろうと思っていたのだが、その雪にばかり目を奪われてつい忘れてしまった。ちあきなおみの歌は、男女の複雑な縁や出会い別れを、具体的且つ切なく綴った曲が多い。それを好む作者もまたいろいろな思い出があるのであろう。雪衾とちあきなおみ…、おそらく夜の出来事に違いない。

賞	入選
作品	寄り添 ^{よそ} うて雪 ^{ゆき} の匂 ^{にお} ひを語 ^{かた} りあふ
作者	会津子
住所	福島県
作品	横顔 ^{よこがお} を独 ^{ひと} り占 ^じ めして冬 ^{ふゆ} 花 ^{はな} 火 ^び
作者	鴨井喜子
住所	福島県
作品	足 ^{あし} あとが見 ^み つめあ ^あ つて ^つ る雪 ^{ゆき} の道 ^{みち}
作者	ぴかり
住所	広島県
作品	雪 ^{ゆき} 国 ^{くに} に嫁 ^{よめ} ぐ覚 ^{かく} 悟 ^ご の綿 ^{わた} 帽 ^{ぼう} 子 ^し
作者	紫陽花の宮
住所	栃木県
作品	二 ^{ふたり} 人 ^り きり転 ^{ころ} んじゃお ^お う ^う かな雪 ^{ゆき} の道 ^{みち}
作者	ふわふわり
住所	栃木県
作品	雪 ^{ゆき} の朝 ^あ 電 ^{でん} 車 ^{しゃ} の向 ^{むか} うにメ ^め ール ^る する
作者	雪男
住所	山形県
作品	雪 ^{ゆき} う ^う さ ^さ ぎ消 ^き えて瞳 ^{ひとみ} の残 ^{のこ} りけり
作者	信安 淳子
住所	岡山県
作品	雪 ^{ゆき} はらう手 ^て に黒 ^{くろ} 髪 ^{かみ} の長 ^{なが} さかな
作者	綾部 保知
住所	茨城県
作品	恋 ^こ 敵 ^{てき} 得 ^え て雪 ^{ゆき} つ ^つ ぶ ^ぶ て容 ^{ゆる} 赦 ^{しや} 無 ^な し
作者	安達 秀幸
住所	東京都
作品	俺 ^{おれ} も今 ^{いま} 来 ^き たとほほえむ雪 ^{ゆき} だるま
作者	光風雫
住所	福井県
作品	待 ^{まち} ち受 ^う けは君 ^{きみ} と私 ^{わたし} とゆ ^ゆ きだる ^だ ま
作者	ろん
住所	新潟県

選者：大類つとむ氏(山形県現代俳句協会会長、俳誌「陸」「街」同人)

応募作品数：2,630作品